



いとう



海援隊旗(二曳きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

# 一日 ICHINICHI SENSYU 千秋

土佐勤王党結成150年記念特別企画

「龍馬と土佐西南部の勤王志士」展

## 土佐勤王党、真の目的は？他にも黨員が？ 幕末にもあった大震災の余韻の中で

会期：平成23年7月16日(土)～同年9月30日(金)

3月11日の東日本大震災において、被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。幕末の日本も各地で大地震が起きていた。嘉永7年(1854)11月4日には東海大地震、その32時間後には南海大地震と続き、太平洋沿岸は大被害を受けた。高知城下も地震の揺れに加えて、津波と火災も起こり壊滅的な被害を受けている。翌年には江戸でも大地震が起こり、復興は容易ではなかったはずである。

その7年後の文久元年(1861)8月、武市半平太を盟主として、土佐勤王党が結成された。震災を乗り越えた熱い志を持った若者たちが、200名以上集まり、国のために働くことを誓い合った。今年が勤王党結成から150年という節目の年。この節目の年に、勤王党の真の目的を探ったり、黨員の掘り起こしを行いたいと思う。

### 土佐西南部に焦点

今年、県内5館の博物館が連携して勤王党の展示を行い、当館は土佐西南部を担当する。

勤王黨員200名近くの中で、西南部出身の人物はあまり多くない。まとまりがあるのは、千屋兄弟を中心とした半山郷出身や、津野山郷や椿原郷周辺の人たち。それから幡多郡の出身者となる。

名簿や実績を調べていて気付いたことは、それぞれ同じ剣術道場で結びついていることである。半山郷の人たちは公文藤三の道場に通っていた人が多く、公文の薦めで黨員となるケースが多い。津野山郷や椿原郷では、那須俊平の

道場出身者が多い。俊平自身は勤王黨員とは考えられていないが、養子の信吾は勤王黨員と考えられる。そして、幡多は樋口真吉の道場である。このように、各地域に指導者の人物の存在が確認される。それは、剣術の師範だけではなく、学問においても言えることで、須崎村の発生寺住職だった智隆も重要な役割を果たしていたと考えられる。

本展では、西南部の勤王志士すべてを取り上げることにはできないが、重要な人物にスポットを当てながら、西南部と勤王党の関わりを見ていきたい。

### 新たに那須家の史料に注目

資料としては、まず、勤王党の思想を明らかにするため、

武市半平太の資料を展示する。

その他、新たに見つかった那須俊平の史料は重要なものが多い。幕末維新前夜の土佐の海防について書き留めた史料や、那須家の先祖書は大変貴重である。また、異国船が来航した際、どういう対応をするべきか、藩が出した触書をまとめた文書も重要である。土佐藩は沿岸が長いので、郷士が海防に駆り出され、異国の脅威を、身を以て感じていた。このことが強い攘夷思想を生み出した一因ではないかと考える。

また、事績のよく分かっているが、なかつた岡本恒之助の史料や、龍馬とも交流があり、幡多の樋口真吉の弟子に当たる佐井寅次郎の先祖書もご子孫

から借りて展示する。

さらに、京都土佐藩邸史料の中から、目付方が脱藩した勤王志士を探る様子や記した文書などを紹介する。大坂で見つけた土佐脱藩志士を北添倍磨と睨んで土佐まで付けて行くが、土佐へ入ってから、千屋金策だと判明する。人違いだったが千屋も要注意人物なので、半山郷まで下横目を派遣した史料など、興味深いものがある。藩邸史料には、上士の目線から勤王党を見た史料が多数含まれているので、上士から見た勤王党の展示も行いたい。

勤王黨員一人一人については、まだまだ謎が多いので、今年を契機として、今後も継続して掘り起こし作業を進めていきたいと考えている。

三浦 夏樹



(右)那須家の系図と経歴を記した文書 (左)俊平が海防御用を務めた時の文書

着々進行、20周年事業

記念館の歩み・入館者の声を書籍に・握手できるブロンズ像

「20周年のあゆみ」

前例がなくとも、良いものができるならどんな挑戦せよ。館長の言葉を受け、『20周年のあゆみ』チームはミーティングを重ね、今までにない「年表、アルバム形式のあゆみ」を企画。手際よくデータを集め、現在すでにデザイン段階に進んでいる最中である。

平成13年の開館10周年の祝典から、さらに10年目を迎えた今。記念館は「龍馬の入口」から「龍馬の殿堂」へと大きく変化を遂げた。小椋館長から森館長への交代、指定管理者公募の波、そしてNHK大河ドラマ「龍馬伝」が巻き起こした空前の龍馬フィーバー。5月末には来館者もとうとう300万人を超えた。さまざまな出来事が怒涛のごとく押し寄せたこの10年、それだけ内容も厚くなる。



座談会で館の20年を懐かしく振り返り、今後のあり方を語り合った

前半は館で行われたさまざまな企画展やイベントの様子、増えていった寄贈品や来館者数の推移など、館のあゆみを写真と年表を盛り込んだアルバム形式

「拝啓龍馬殿」編集状況

龍馬記念館の入館者が龍馬へ寄せるメッセージ「拝啓龍馬殿」の書籍第2弾は、選り出したメッセージの掲載可否を問うハガキを4月中旬に発送、うち8割の方から返事が届いた。ほとんどの方が氏名掲載OK、さらに龍馬への熱い想いをハガキいっばいに書いてくださった。6月上旬、これらをテキスト化したものを、出版社の新人物往来社に渡し、書籍化作業に入った。今後は、校正を数回重ね、装丁などを決め、10月末には出版予定。

3月11日の東日本大震災で日本だけでなく世界中の人々の価値観が変わった。それを受けての「拝啓龍馬殿」。記念館に来

館し、龍馬へのメッセージを書いているまさにその時、仙台のご自宅が被災していたという方も。今こそ現代によりみがえって日本を救ってほしいという、龍馬の再来を望む声も多い一方、幾多の困難を乗り越えて日本の夜明けを目指した龍馬の精神で、みんなで力を合わせて日本を建て直す！という心強い声も多く寄せられた。まさに、生きるヒント。がつまった一冊です。



ハガキの整理は進んでいる

着々進行

シニイクハンド龍馬像

桂浜で龍馬像にご挨拶。龍馬記念館に上がってきて龍馬と握手。まずは挨拶の「こんにちは」。そして、帰る時には「また来るぜよ」。もちろんそればかりではないでしょう。みなさんそれぞれに思いを込めて手を握る。そんな、ブロンズ像になることを願っ



10月には完成予定

て制作中である。11月13日(日)、館の開館20周年の日に除幕式を考えている。

制作に当たっているのは県展彫刻作家の大野良一さん、西本忠雄さん、吉岡郷継さんらが中心になって5月をめどに原型作りを終えた。表現は先生方にも特色があるだけに、なかなか意見の一致を見なかつたという。それに、龍馬だけに、製作中の像を見たファンからの思いや注文も少なくなかつた。「若々しく!」「弾むように!」「きりつと」などと言うのが多かつた。明らかに龍馬伝の福山龍馬さんの姿がイメージにある。先生方はその注文を取り入れながら、さらに龍馬の品格を追いかけていった。

「納得してもらえと思う。苦しくも楽しい仕事でした」と顔を見合わせてのコメントであった。

見えてきたアメリカフォーラムの意義

風になつた龍馬3

準備の中で

前回アメリカフォーラムに向けた進捗の概要をお伝えしたが、今少し立ち止まって、このフォーラムの意義を考えてみた。

東日本大震災発生の三日後、私はハワイフォーラム二回目の打合せのためにホノルルに向かつていた。地震後のえも言われぬ不安の中、私の気持ちは大きく揺れていた。行きたくないというのが本音であった。

しかし、そんな私の気持ちを現地の方たちが変えてくれた。打合せだけのわずかな滞在であったが、ハワイで生きる人の



「アロ〜ハ!」。アメリカフォーラムを紹介する山崎朋子アナウンサー=日本語ラジオ放送KZOOスタジオで

力強さとやさしさに背中を押された気がする。ありきたりだが、行ってよかつたと思つた。

プナホウスクール(オバマ大統領出身高校、ハワイフォーラムの授業校)でのこと。ひろみピーターソン先生、大溝ナオミ先生の授業に参加させていただいたが、生徒たちは被災者への救済物資、募金などの支援に取り組みはじめていた。地震直後、



大震災支援を考えるプナホウスクール高校生=3月15日

ひろみ先生から「生徒たちと今、何ができるか考えています」とメールが入っていたが、そのことが目の前に展開していた。校内で「日本は大丈夫ですか?」と小学生の女の子が声をかけてきた。小さな子どもたちまで日本に気持ちを寄せているのだと驚いた。

日本語放送ラジオへの出演。ハワイ日米教会やホノルルファンデーシヨンの方たち、マキキ聖城キリスト教会の黒田先生たちとの交流などを通じて、この大震災に遭遇した日本人として幕末の三人、龍馬、海舟、万次郎とともにアメリカフォーラムを開催する明確な意義が見えてきた。一つひとつの命、人々の幸福、生きるということの大切

さ。不安を抱えた渡航だったからこそ、それらのことが私の血肉となった。

龍馬たちの時代から一世紀半を経て、私たちが手に入れたと思つていた自由や平等、平和というものが、なんと不確かなものであつたのか。このたびの大災害と2万3千人余りの方たちがそのことを気づかしてくれた。日本だけでなく世界の人々が立ち止まり、生活や生き方を考え直し始めた。私もまたその一人

である。

多くの命や生活の犠牲と引きかえに私たちは大きな学びを与えられた。目をそらさず、これから向かうべき方向を見極めなくてはならない。まさに、時代は未来へ。というアメリカフォーラムのテーマがここにある。アメリカを舞台に、幕末の日本人、龍馬、海舟、万次郎とともに、今をを考え、行動したいと思う。前田 由紀枝

アメリカフォーラム取り組みの流れ

6月15日 ハワイ・マキキ聖城キリスト教会の高校生たち来訪(龍馬記念館)

7月6日~11日 NYジャパンサエティイ高知研修(ニューヨーク中高校教員のホームステイを通じた学校訪問など。ニューヨークフォーラム参加者)

7月18日 「われら海援隊!アメリカに行くぜよ!」高校生セミナー出発式

10月9日~18日 アメリカフォーラムツアー

10月11日 ハワイフォーラム

10月14日 ニューヨークフォーラム(プナホウスクール、ハワイコンベンションセンター)

10月14日 ニューヨークフォーラム(NYジャパンサエティイ)

※一般ツアー問合せ・申込み 土佐電トラベル 088-882-0111

名鉄観光高知支店 088-873-5888

高知新聞観光 088-825-4334

11月5日(土) 18時~21時

アメリカフォーラム報告会(美術館ホール) 入場無料

第1部 NHK大河ドラマ「龍馬伝」第7回「遙かなるニューヨーク」

パブリックビューイング

第2部 アメリカフォーラム帰国報告シンポジウム

坂本登さん、高山みな子さん、中濱京さん、高校生たち

第3部 「風になつた龍馬」メッセージ

女優・小林綾子さんによる、龍馬からの伝言。

# 目線を変えて、龍馬体感

## 新コーナーを設置

入館者の皆さんの声をじかに聞けるのが、入館者アンケートである。大河ドラマの影響で館内見学の目線は鋭くなってきたように感じる。「順路をきちんと決めよ」「暑い、寒い！」など手厳しいものも少なくない。逆にほめられたりすると、知らず気分よくなっている。注文中で自立つのが「ビジュアル化」を望む声である。やっとそれに少しばかり応える体制が出来た。新たなコーナーが出来たので紹介する。

### 人生の記念に

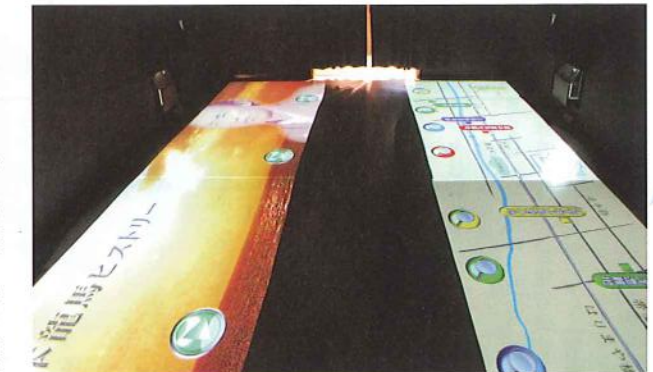
まず、2階に設置された「時の階段」。皆様から寄せられた龍馬に誓う年賀状を封印し、10年後に開封するまでのタイムボックスとなっている。今年の1500通を昨年の分と合わせて第1回目とした。これから毎年階段が埋まっていき、ちょうど10年後はいっぱいになる。その年、今年の分を開封し、それから毎年その作業が繰り返されていくわけ。時代時代の出来事思いが反映され、きつと人生の記念になるはず。

### 大画面の迫力

次はメディアアコーナ。地下1階、受付を過ぎてすぐ、目に飛び込んでくるのは120インチの大型スクリーンで、館内の案内である。オフイシャルDVDによる資料説明、龍馬の足跡、小林綾子・西村直記による「朗読・コンサート」のカットなど大画面の迫力で紹介す



120インチ大型スクリーン



幕末ボンピングフロア作品

### 館の新スポットに

### 龍馬ファン一般参加

中2階に設けた60インチのモニターを使った「電子看板」は、龍馬ファンのコーナーである。「はくのりょうま わたしのりょうま」のテーマで、画像を一般募集している。それぞれが頭に描いた龍馬を投稿してもらい、作品の展示を行なう。ランダムで紹介していますが、投稿者が自分の作品を選んで表示する事も可能。なお、作品の投稿は随時受け付け中。応募方法は当館ホームページをご覧ください。ぜひ新コーナーをご体感ください。

渡辺 曜子



「はくのりょうま わたしのりょうま」投稿

## 「罅は知っている！」⑥

### 土佐の幕末維新

土佐歴史資料研究会 現代龍馬学会 小島一男

#### 前回までのあらすじ

慶応3年、時代は音を立てて動き始める。土佐藩参政、後藤象二郎は敵対関係にあるはずの坂本龍馬に接近した。個人的な怨みより土佐藩の存亡がかかっている。混乱の幕末をこもなげに活動する「亀山社中」のリーダー坂本龍馬の、力、が必要になったのである。後にいう長崎の「清風亭会談」。後藤象二郎と坂本龍馬の提携は大政奉還という、日本の仕組みを変える基点へと発展していく。

#### (三) 後藤象二郎の活躍

「清風亭会談」から、三ヶ月経過した。慶応三年四月二十三日、濃霧立つ深夜の瀬戸内海で、龍馬率いる「海援隊」の「いろは丸」が、紀州藩の「明光丸」と衝突して沈没する。世に言う「いろは丸」事件である。翌二十四日から開始された賠償問題の交渉は、五月二十二日、一ヶ月ちよつとでスピード解決する。もちろん、龍馬側の大勝利であった。それは龍馬らの草の根的努力と共に、英国人オールドやグラバーらの助言による「万国公法」を使つての交渉が功を奏した結果だと言われる。しかし、それ以上に、土佐藩参政、後藤象二郎の存在が大きい。その、劇的解決に至る経過は、土佐商会の役人が書いた「池田道助日記、思い出草」に克明に記されている。その一部を引用してみよう。

浪人船いろは丸は借り受け、大阪へ行く途中、三州箱の三崎において、紀州船に乗りかけられ、いろは丸は沈み、市太郎助かる。備後のトモという所へ上がり、対談。市太郎は紀州船にて二十九日夜、長崎着。待宿にいた坂本龍馬様は、後から早舟にて追ってくるようになっていくが実に不安である。

十五日 くもり 才谷梅太郎 今日紀州へ対談に行く。

二十二日 天気 後藤様、横山(久馬次)、私(池田道助)、常作、才谷、梅太郎、尾谷、孝藏、他四、五人連れて聖福寺へ行き、紀州藩と談判いたす。(原訳通り)

とあり、才谷梅太郎の名前で紀州と談判したことが知れる。当時の様子を生き々しく伝える貴重な資料である。

このように、船港に取り残された龍馬等は私船にて長崎に向かうが、途中下関にて下船し長崎には五月十日の晩に着いた。



(画) 和田 通博

その前日、土佐、薩摩、京都に於いて将軍を討ち取った。このわさが長崎の町に流れた。これは紀州人や長崎奉行所を動揺させ、賠償交渉を有利に導くための龍馬の作戦の一つであると言われている。

さて、五月十二、十三日は大洪水に遭い、龍馬は出鼻をくじかれた格好になった。しかし、十五日は天気も回復、紀州藩の宿「聖福寺」で本格的な談判が始まった。森田晋三らは浪人四、五十人を集め、心理作戦で紀州側を揺さぶったりしたが、十七日の交渉も難航、船将 高柳楠之助等紀州側は「明光丸」の非を認めようとせず、ついにはその配を長崎奉行所に一任しようとの作戦に出た。このころ、丸山花街ではこんな戯詩がはやっていた。「船を沈めたその償いは、金を取らずに国を取る」。これも龍馬らの世論を味方にする作戦の一つだった。

二十二日は後藤象二郎が談判に加わり、土佐商会の役人七、八人も同席し紀州川も勘定奉行

茂田一次郎が加わり、談判は「紀州藩」と「土佐藩」の問題に格上げされた格好となった。さしもの高柳、茂田ら紀州藩側も事の重大さに気づき顔色を失った。激論の末、紀州側より、「万国公法」に准ずる」との約定を得た後の後藤の一言が効いたようである。

「紀州の諸君、貴藩が償うべしと決すれば当藩は、貴船(明光丸)を賜りたし、否、賠償金の支払いを望むなら、それもよし。二つに一つである。我が土佐の山内家は將軍家忠義の国、左幕を貫いており申す」と言いつつ刀を前に置いてそして

「この罅、「一心不乱に」の罅はその忠誠心の証たるもの。」容堂公の身代わり」として持つており申す」と続けた。さらに一同を見回した視線を茂田に止めると「ここは、この後藤象二郎の顔をたててくれんかのう一言いながら立ち会いの一人薩摩の五代才助と目を合わせ領いた。

後藤の言葉の裏は「長州だけでなくこの土佐まで敵に回す気か。土佐が動けば薩摩も動く。紀州藩が、船一艘の賠償金を拒んだために、徳川三百年の歴史を終焉させるような事態にだってなりかねない。そんなことになっては後代まで名折れになりませんか？」

「やんわりしかし核心に迫る意図がありである。茂田は満身にその圧力を感じたのである。後藤は二十四日にも聖福寺の紀州勘定奉行、茂田一次郎に書状を出している。その五日後、二十九日、紀州藩は五代才助の調停を受け入れ、紀州藩は「いろは丸」の損害賠償金として、海援隊に八万三千兩の支払いを

約束した。この事件はまた、龍馬と後藤、土佐藩との結びつきを確固たるものとした。

注、いろは丸事件 慶応三年四月十九日、海援隊が伊予国大洲藩加藤家殿のチャーター船「いろは丸」(百六〇トン・船頭、弥須村市太郎)に土佐藩の積荷を満載し同日午後九時、長崎を出航、大阪に向かう途中、同月二十三日深夜讃州、箱の岬沖にて紀州藩船「明光丸」(八百八十七トン・船将、高柳楠之助)と衝突、「いろは丸」は沈没した。海援隊の初仕事であった。坂本龍馬は世界の海のルールブック「万国公法」を提示して賠償問題を争った。この事故は、日本で初めての蒸気船同士の事故として有名である。

#### (四) 容堂公瓢箪の証

慶応三年当時の長崎は、現在我々が想像する以上の国際都市であった。外国商館が軒を連ね、港は頻繁に出入りする外国汽船の姿があった。そこが、日本であることさえ忘れさせる賑わいがあった。当然、異国料理を提供する店も少なくなかった。中でも、土佐商会の役人が接待に利用するのが西洋館「自由亭」であった。

六月三日、店の奥まった一室で、龍馬と後藤はシャンパンを開けていた。テーブルには当然、異国料理。昨日までの雷雨が嘘のような快晴であった。窓から港が見える部屋には、明るい陽光がガラスを通して差し込んでいた。龍馬は心地よく静かに杯を重ねた。(次回に続く)

# 拜啓 龍馬 殿

351通

平成23年3月21日〜6月20日

**桂 三枝** 知らぬ存知でも、桂三枝は知らぬ存知でも、うね。会いたかったなあ。会えなかつたけれど、心の中にあなたは生きていますよ。世の中を変えたいという熱い心、私にのり移ったかのように、落語の世界を変えたいとがんばってこられました。あなたのおかげです。ありがとうございます。龍馬さま。三枝より

(3月4日 桂三枝)

**龍馬さん**はいつも日本のこと、世界のこと、そして一緒に夢を志す仲間のこと、家族のこと。本当にたくさんの方に目を向けておられましたね。すごいことだと思えます。僕は昨年の大河ドラマ「龍馬伝」でも、もがきながらも、いつも仲間と共に前に向かって進んでいく龍馬さんの姿に、勇気と感動をもらいました。これからも龍馬さんに教えていただいたことを胸に刻み、日々前に向かって歩いていきますので、いつまでも見守っていてくださいな!

(3月21日 広島 K・N 15歳 男子)

**太平洋**は思っていた以上に果てしなく見える。鳥取の日本海を見慣れた目には、明るすぎてまぶしい。世界を視野に暮らすという一時代を駆け抜けた龍馬が生きていれば、今をどう眺め、行動するか。現在もまた大きな変革の時代です。しかも、日本一国の命運だけでなく、世界の命運が問われている時代、人類と動植物を

**大河ドラマ**で見てファンになって、息子に頼んで連れてきてもらいました。展示等を見て、改めて龍馬という人間の偉大さに圧倒され、ほれ(?)直しました。一生の思い出にきて良かったです。

(3月30日 京都 K・U 85歳 女性)

**龍馬さん**、家族愛に包まれて育ち、日本の国をよくしようと努力されたことが、記念館の資料を見てわかりました。私も家族の支えになり、家庭と社会生活が楽しく過ごせるよう努力していこうと思えました。ありがとうございます。

(4月17日 香川 K・T 57歳 女性)

**久しぶり**です。何年前かにここを訪れました。学校で歴史もはじまり、ばく末がとも楽しめました。本を読んでも、資料を見て、「やっぱり龍馬さんはかっこいいな」と思います。そんな龍馬さんだから、こちゃこちゃな平成の世の中もまっくいくようにしてくれていると思います。それに子どもたちの世界も色々広がります。アイディアください!

(5月1日 兵庫 R・K 11歳 女子)

**今の日本**は龍馬さんが目指したような国になっていないか?私はいつも、龍馬さんが今の日本を見て、天国で泣いているのではないかと考えています。今の現代に龍馬さんがいてくれたらいいのに、とも思います。でも、龍馬さんが大人になったら、日本を、龍馬さんが幕末の志士たちが目指したような国にしてみせたい。絶対に。天国で見ていてください

**含めた地球規模**の思想が問われている。波の音が答えて催促している。誰もか龍馬となつて答えて見つけていかねばならない。

(3月23日 鳥取 S・E 61歳 男性)

**なんでこんな**にも日本のことを思い、無血で日本をまともな国としてくれなかったのか、悔しい思いで一杯です。生き返ってほしいです。私の母が高知市出身なので、私にも土佐の血が流れていると思うと、うれしく、誇らしいです。私の子どもたちも龍馬さんのことを慕っています。苦を苦と思わず、明るく前向きで力強い龍馬さんのように生きていってほしいと思います。

(3月23日 静岡 M・F 36歳 女性)

**結婚して**今はフランスに住んでいますが、日本を離れる時間が長くなればなるほど、維新志士を代表する龍馬さんの強いリーダーシップや行動力にあらがいます。暗殺、という形で人生を閉じた龍馬さんは、人生に悔いはないでしょうか?一度きりしかない時間。龍馬さんのように名を残せるような人生は送れなくとも、今、お腹にいる赤ちゃんが大きくなったときに、母を自慢に思ってくれるような豊かな人生を過ごしてやろうと思えます!

(3月23日 神戸 M・I 27歳 女性)

**あなた**の生きていた時代から約150年がたちました。あなたが夢見ていたとおり、今でも

いつでも好きなときに、世界に行くことができます。桂浜から太平洋を眺めながら、あなたもきつとお喜びのことでしょう。しかし、現代にはまだ解決策の見つからぬ問題が山ほどあり、また先の東日本大震災により、今は再び試練のときを迎えています。こんな時、あなたならどんな行動をするでしょうか。私は龍馬さんの想い、志を汲み取り、今一度自分を見つめ直し、しっかりと自分の道を歩んでいきます。龍馬さんもお見守りしてください。

(3月24日 富山 S・N 19歳 男性)

**2週間ほど前**、東北で観測史上最大の地震が起こり、日本中が不安に包まれました。約12年前に「日本を洗濯する前に己を」とあなたに誓った青年は、海上保安官として人命救助に向かいました。その間、被災者同様、彼の安否を心配し、家族で無事を祈りました。彼の弟もまた、海上保安官として被災地へ。日本政府の対応、世界各国政府の対応、今、あなたが生きていてくれたらどう思ったでしょう。しかしながら、我々日本人はあなたの意思のように、力強く生きています。またいつの日か、日本中の人が笑って暮らせる日を夢見たい。

(3月23日 高知 M・I 25歳 女性)

**今日**、父と母と来ました。今、日本は東北地方太平洋地震で、大変なことが起きています。これからの日本が進む道が良いものになるように見守りください。私自身も頭をやわらかくし、いろいろな知識を身につけられるようにしていきたいです。

(3月25日 M・K 20歳 女性)

**本日**は念願の記念館に家族で来て感激しております。

**龍馬さん**!高知と記念館に久しぶりです。日本は今、暗い世の中になってきました。大震災がおこって皆が不安な中を生き抜いています。龍馬さんみたいに力強く、信念を持って、この荒れた世の中を、龍馬さんの大好きな日本人の一人として生きていきます。ホノマに日本を洗濯してくれてありがとうございます!それから日本を見守ってください!若いウチらの世代で、日本をもっといっぺん洗濯するからね!

(5月4日 広島 E・N 19歳 女性)

**一回目**ですが、景色と共に龍馬の故郷であるこの辺りの地が心が震えるほど、龍馬の気持ちを感じます。益々日本が龍馬の意思を強く必要としていることを切に感じます。その時代であったからその意志が大きくなつてきたのかなあと感じます。日本は今こそ貴男が必要なのです。しかし貴男が居ない今こそ、私たちがその意思を継いでいきます。

(5月4日 広島 M・N 73歳 女性)

**龍馬記念館**には時々来ています。(年間10回以上)。何度来ても落ち着く良い場所です。これからは素晴らしい企画をしていただきたいと思います。ありがとうございます。また来ます。なにしろ地元、土佐の誇りですから。

(5月5日 高知 H・H 61歳 男性)

**今年**も来ました。毎年、桂浜であなたと会うために大

**今年**も来ました。毎年、桂浜であなたと会うために大

## \*\*\*編集者より\*\*\*

今回は、3月11日に発生した東日本大震災に関して、龍馬ならどうするかと問うメッセージが多く寄せられました。一方で、記念館を見学して龍馬の志を知り、未来へ向けて前向きに歩いていくという、大変力強いメッセージが、若い世代の方から寄せられていたのが印象的でした。現在開催中の企画展のタイトルは「リョウマハ生キテイル」。まさに、皆さんの心の中に、龍馬が生きているようです。

尾崎 由紀

## 瓦礫荒野に立つて

瓦礫の中に6階建てのビルが立っていた。その2階部までは完全に破壊されている。シャッター、窓枠は粉々に、本体の骨格、錆びた鉄骨がのぞく。隣にこちらは2階建てのブロック建築の事務所だ。外観を残して、瓦礫倉庫の様子である。なんとその屋根に車が一台乗っかっていた。前輪は屋根にあり、後輪は空中にある。ちょっと押せば落下しそうだが、もう2ヶ月もそのままだという。遠くから見たら、2階屋根から向かいのビルに飛び込まんとする車の図。そこは明らかに常識を超えた空間であった。3・11東北大地震直撃被災地、岩手県の釜石市、宮古市、陸前高田市、大船渡市、大槌町などを回って何度目かを奪われ、息を飲んだことか。瓦礫荒野を吹き渡る5月の海風に心を揺さぶられた。

森 健志郎

## ここは館長の部屋



陸前高田市

現実にはその上に宮城、福島両県の被害がぐさり加わり、さらに福島原発は将来への恐怖を約束した。思うに今回の震災が明らかに文明社会への警鐘となったことだけは違いない。便利さと速さ、金銭最優先現代への、これだけのいか?という戒めのように感じる。自らの持つ物事の判断基準、言い換えれば価値観が変わった。

「瓦礫荒野」に立ち尽くした。「家」。鉄筋、木造、和風、洋風、お屋敷、作業小屋、民家、商店、車。乗用車、トラック、バス、軽4、ワゴン、オートバイ。何の差別もない。人間だって男女、大人子供、善人悪人、サラリーマン、自営業・・・関係ない。

自然の起こした大津波の前では一呑みであった。「なぜ?誰がどうして?」大自然の怒り、戒めだとの声が聞える。つまり、神の業か。過去はそれでなんとなく納得してきた気持ちが、今回は妙に治まらない。一瞬のうちに消えた2万5千人の命を考えると、未だに、遺体さえ不明の方々がいる。人の命の尊さを教えてきたのはそれこそ「神の教え」ではないか。もし、神の業なら神さえも許せない!そう考えるのは私だけだろうか。独り言をつぶやいている自分に気づいて我に返った。

## ●新スタッフ紹介●

### 新たなスタートに学芸員も増員

「龍馬伝」ラッシュという強力な後押しを得て館は今年開館20周年、新たなスタート台に立った。さらなる体制固めに4月から心強いスタッフ3人が加わる。専門の学芸員も増え、より密度の高い企画展で入館者の皆さんの期待に応えるべく準備中である。



副館長 板垣 要次



学芸員 亀尾 美香



森本 琢磨

高知市出身です。学生時代以後県外で過ごし、うち十年は学芸員として勤めまわりました。土佐の幕末維新史が専門ですが、長らく高知を離れていましたので、一から勉強し直して勤めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

4月から事務職員として勤務しております。昨年「龍馬伝」や「土佐・龍馬であい博」の影響もあり、高知や京都の史跡や資料館を多数訪ね、様々なことを学びました。龍馬や幕末の知識に関してはまだまだ初心者レベルですが、開館20周年に携われることを誇りに思い、誠実さと正確さを大切にしたいと思っております。

## ■「幕末の志士達×帽子作家 山本正子 “おしゃべりな帽子たち”展を終えて



龍馬の帽子たち

「幕末のお気に入りの人物を教えてください」。当記念館の入館者アンケートにある質問だ。昨年4月から10ヶ月間の集計結果をまとめた幕末の人気人物ベスト10の写真と、帽子作家・山本正子さんの作品をコラボレーションした展覧会を、3・4月海の見える・ぎやらりいで開催した。

総得票数10552票の内1位は4610票で龍馬。龍馬伝イヤーの結果として44%を独り占めた。2位は勝海舟、3位はジョン万次郎と続く。

山本さんは1人1人のイメージを、大胆に表現して見せてくれた。例えば龍馬の帽子は船（先頭に立ち世界を目指す）と龍馬の着物のイメージから、クラウン（頭頂部）にはピストル（戦いと平和）、バックスタイルには家紋がデザインされていた。また、万次郎の帽子は地図・星条旗などが施され、漂流の果てにたどり着いた新しい世界をポップ風に表現していた。

とにかく会場には山本さんの想いが一杯詰まった個性的な作品が面白楽しく並び、まさしく雄弁な帽子たちであった。これらの作品は10月にN.Y.でも展示される予定である。 中村 昌代

## ミュージアム ショップの ニューグッズの ご案内

### ■ りょうまかるた

龍馬記念館開館20周年記念として製作した“りょうまかるた”が遂に完成しました。製作の始まりは、昨年10月。龍馬108女人会の企画のもと当館の館長、学芸員、職員が作業を分担し製作しました。

“りょうまかるた”と名のついたかるたですが、龍馬はもちろん龍馬に関わる多くの人物や幕末の出来事も広く学べます。「㊦ 勝海舟 出会った龍馬は 龍となる」、「㊧ 強い国 目指して結んだ 薩長同盟」など楽しい内容。

5月からは当館ミュージアムショップでも販売を開始、好評をいただいております。今年の夏休みは是非、家族そろって“りょうまかるた”で遊んでみませんか。また、今後当館ではりょうまかるた大会も開催する予定です。 山中 真優



### ■ USBにも龍馬登場

龍馬がUSBにも登場した。実は館が作った。名刺型、表はいつもの立像写真、裏は桂浜龍馬銅像の横顔である。あの当時、幕末。乱れ飛ぶ情報は揺れる世相そのものであった。龍馬の情報収集能力はずば抜けていた。つまり、整理



能力にも優れていた。が、さらに「龍馬がもしUSBを持っていたら」などと想像しながら制作した。USB4GBである。使ってみてください。いい知恵がわくかも。 森

### ■ 「The Furoshiki～幕末人物12選～」

当記念館では、開館20周年を記念して“The Furoshiki～幕末人物12選～”を制作しました。デザインは奈路道程さん、描かれている人物は、記念館のアンケートで“幕末のお気に入りの人物”を記入していただいたベスト10です。色合いは白地に赤&鼠系と黄&青系の2種類があり、包む・スカーフ・ひざ掛け・タペストリーなど、皆様が自由にオリジナルな使い方をお楽しみいただければと思います。 中村



## 入館状況

2011年6月20日現在（開館以来7,114日）

- ◆総入館者数 3,015,554人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2011年度最多入館 (2011年5月4日) 5,502人
- ◆2011年度最少入館 (2011年5月11日) 193人

## 編集後記

あっという間に今年も半分が過ぎた。昨年は『龍馬伝』パワーに追いまкруれた。今年は記念館の20周年、10月の“アメリカフォーラム”と、心の段取りは出来ているつもりだったところへ、日本人、人間としてのありようを芯から問い直す3・11東北大地震が起きた。物事を見る目の確かさを問われている。これまで何気なくこなして来た諸事万端の対応、判断に間違いはなかった。それをどう「飛騰」の中に表現していけばいいのか悩んだ。そしてまだ悩んでいる。この悩みは一過性ではない、これからも続くのである。(モ)

館だより“飛騰”第78号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏  
発行日 2011(平成23)年7月1日  
発行 高知県立坂本龍馬記念館  
〒781-0262 高知市浦戸城山830  
TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015  
http://www.ryoma-kinenkan.jp  
「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00～17:00 年中無休  
入館料 一般500円・高校生以下無料  
身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・  
戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名  
高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、90円切手5枚をお送りください

## 特集

# 第3回 現代龍馬学会

### 3年目の意義と課題 龍馬記念館の“縁の下の力持ち”目指して



## 節目の年 体制固め発展誓う

「第3回高知県立坂本龍馬記念館現代龍馬学会」(永国淳哉会長139人)総会・研究発表会が28日、龍馬記念館の隣、国民宿舎「桂浜荘」で開かれた。学会はスタートしてから3年目、また、龍馬記念館は開館20周年という節目の年。しかも、3月には東日本大震災である。色々な意味で重要な日となった。新会長の誕生、理事の増員、研究発表は分野の違う8人が熱く語って盛り上げ、今後の発展を誓い合った。

東日本大震災は人間の持つ価値観を変えさせたと言っても過言ではない。会にもその緊張感が満ちていた。総会は午前9時開始。震災被害者への黙祷の後、議事審理に移った。3年目に入った龍馬学会は新年、紀要2号の発行、学会員6人による自発的パネル展など徐々に活動の足場が固まってきた。これから次のステップ段階に入る。そこで、更なる体制固めを図った。より多くの意見集約のために、理事を8人から15人に、また、1年に1回の大会、機関紙「飛騰」内の編集、例会、ホームページなど委員会を置いた。さらに、永国淳哉会長を顧問に新会長に片岡雅文氏を選んだ。

引き続き、恒例の研究発表会に移った。午前中3人、午後5人がそれぞれ40分の持ち時間で発表を行なった。坂本家、勝家の子孫、学者、芸芸員、カルチャーサポーターなど立場、年齢も異なる皆さんの発表に72人の参加者が熱心に耳を傾けた。この発表を元に来年紀要3が発行される。午後5時、宣言文を作成、発表して閉会した。夜はリラクセスしての懇親会で親交を深めた。

### 23年度現代龍馬学会役員決定

「龍馬記念館と連携しながら、「龍馬とその時代」現代における龍馬」「龍馬を支え、助けた人々」などについて、少しでも研究を進展させ、龍馬の思想的な部分と、史実の検証や研究のバランスを図っていきたい」と新会長に就任した片岡雅文さん。  
23年度からの現代龍馬学会は「龍馬精神の啓蒙」とともに、「歴史研究、調査」にも比重を置いた活動が期待できそうです。  
※総会において新年度の役員は以下のように決定しました(敬称略)

#### ●顧問

永国 淳哉  
(歴史研究家)

坂本 登  
(坂本家9代目当主)

●新会長

片岡 雅文  
(高知新聞編集委員)

●副会長

渋谷 雅之  
(徳島大学名誉教授)

坂本 世津夫  
(総務委託 地域情報化アドバイザー)

●理事

森 健志郎  
(坂本龍馬記念館館長)

宅間 一之  
(歴史民族資料館館長)

渡辺 瑠海  
(ラッセイスト 坂本龍馬記念館)

三浦 夏樹  
(坂本龍馬記念館主任学芸員)

前田 由紀枝  
(坂本龍馬記念館学芸主任)

※以下新任理事

新本 勝庸  
(フリーブル出版代表取締役)

小島 一男  
(土佐歴史資料研究会)

川崎 弘佳  
(高知市立昭和小学校教頭)

竹内 土佐郎  
(安田町文化財保護審議委員会)

宮 英司  
(高知大学非常勤講師)

宮尻 千恵子  
(龍馬研究会理事)

●監査

大崎 隆徳  
(桂浜郵便局長)

江上 英治  
(京楽の呉服はなぶさ)

●事務局

手島 ゆか  
(坂本龍馬記念館)

西本 有里  
(坂本龍馬記念館)

佐々木 恵  
(坂本龍馬記念館)

渡辺 瑠海  
(坂本龍馬記念館)

●① 大会運営委員会

委員長 坂本世津夫  
副委員長 新本勝庸

●② 編集委員会

委員長 宮英司  
副委員長 新本勝庸

●③ ホームページ委員会

委員長 渡辺瑠海  
(編集委員会と連携)

●④ 例会委員会

委員長 永国淳哉  
副委員長 江上英治

パワーアップした現代龍馬学会を、何とぞよろしくお願いいたします。



新会長  
片岡 雅文氏

特集

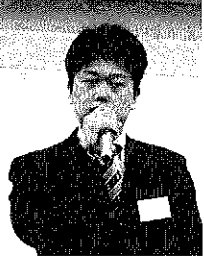
# 第3回現代龍馬学会研究発表 テーマは「自由・平等・平和」 大震災ショックの中で 今こそ、「龍馬実践」のとき

## 幕末と現代を駆け巡る視点で発表の8人、龍馬で魅了

総会の会議席が、龍馬実践・研究発表「会場には変わりもた。その瞬間、誰もが確かに龍馬の風を感じたはずである。最初の発表者、龍馬記念館の三浦学芸員が壇上に立つと、会場は引き締め、2番手広谷先生は熱いこと、熱いこと。昼食もそこそこ、夕方まで、8人の発表者が一人30分という短い持ち時間でそれぞれ龍馬を語り、龍馬ワールドへ引きずり込んだ。会場からは熱心な質問が飛び交った中にも笑いあひの発表会であった。この研究結果は、紀要としてまとめられる。

### ① 三浦 夏樹氏

「龍馬と土佐勤王党の関わりについて」



同じ土佐勤王党の藩士池内蔵太との明でも脱藩には絶対的な違いを解説し、龍馬に反対であった半馬が内蔵太の母に宛てて平太の生き方、そして土佐勤王党の置かれた状況から龍馬や吉田達三の状況を、土佐勤王党の藩士選んだ者たち、戸時代初期から系統脱藩罪とは何なのか、深く繊細な研究が、次男坊だった龍馬、究考察に会場からは拍手が沸いた。

### ② 廣谷 喜十郎氏



「坂本龍馬が現代に生きていく龍馬像の変遷」



来賓挨拶  
高知県文化財団理事長 千葉 健氏

「龍馬は手紙をどう書いたのか？」と宮川氏。これからのことをどのよう組み立て、手紙をどうか考案をもつて書いていたかを考察。これも書かねば、あれも書かねばと思いついたことを自由に書き記していた龍馬の姿が微笑ましく浮かんでくる。考古学室長である宮川氏らしい斬新な発表。非常に興味深かった。

### ③ 高山 みな子氏

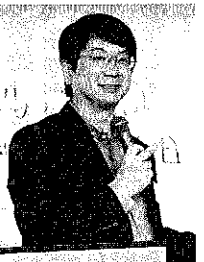
「海舟の政治理念『憤言三書』を読む」



「脱藩罪」とは、原理原則に忠実に動くのが土佐藩の人の特徴であった。同様に土佐勤王党の藩士池内蔵太との明でも脱藩には絶対的な違いを解説し、龍馬に反対であった半馬が内蔵太の母に宛てて平太の生き方、そして土佐勤王党の置かれた状況から龍馬や吉田達三の状況を、土佐勤王党の藩士選んだ者たち、戸時代初期から系統脱藩罪とは何なのか、深く繊細な研究が、次男坊だった龍馬、究考察に会場からは拍手が沸いた。

### ④ 宮川 禎一

「慶応元年九月九日、龍馬は手紙をどう書いたのか？」



「現代龍馬学会総会大会」終了後の楽しみといえば、やはり県内外会員の方、また、会員以外の方も一緒に親睦を深めます。今年も多くの方に参加いただきました。

未曾有の東日本大震災から二ヶ月余り、時代が深い悲しみと厳しい困難に直面する中で、高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会は発足から三年を数えた。

ことしは県内外から七十二人が参加し、「自由・平等・平和」をテーマにして、創意に富んだ研究発表と熱心な討議を行った。

昨年のNHK大河ドラマ『龍馬伝』による龍馬ブームや、入場者が開館以来三百万人に達した龍馬記念館の盛況を見るとき、龍馬の思想と行動への関心はますます高まっている。

私たちはこれからも、互いに助け合ってこの学会を発展させるとともに、龍馬精神の追求と発信に努めていきたい。

平成二十三年五月二十八日  
高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

### 宣言

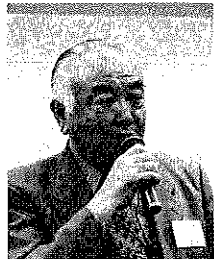
### 懇親会



「現代龍馬学会総会大会」終了後の楽しみといえば、やはり県内外会員の方、また、会員以外の方も一緒に親睦を深めます。今年も多くの方に参加いただきました。

### ⑤ 坂本 登氏

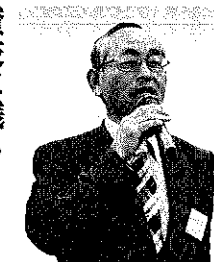
「龍馬における自由平等思考」



「船中八策」を起草し、龍馬の自由と平等、民主国家を目指した思想。新しい日本のために奔走した龍馬代を結ぶ土佐南学、坂本直寛らが信仰していた風土、家族環境などについて現代の視点から考察。龍馬に影響を与えた川島伊三郎、に語った。

### ⑥ 野藤 等氏

「讃岐と龍馬 顕彰碑の建立」



岐を訪れた龍馬の足跡を辿ると共に、讃岐龍馬会塩飽社のパワフルな顕彰碑の建立活動を支えたい。

### ⑦ 橋詰 明仁氏

「私と龍馬さんと桤原のこと」



の志士が全国区で時代は五山文学の双壁であったことに感激してと義堂周信と絶海を龍馬さんへの情熱がはじめ、明治維新の先高まったという橋詰 明仁氏と吉村虎太郎氏。坂本龍馬記念館 那須俊平、那須信吾、桤原が創出した文化や志士について、軽妙に話しているが、今回は桤原と偉人の研究発表で会場を盛り上げた。鎌倉時代から室町

### ⑧ 上野 麻衣氏

「龍馬の生まれ育ったまち」



幕末上町散歩へ  
龍馬の豊かな情緒や人間性を育て上げたのは、家族や仲間たちとともに過ごした現在の龍馬というまちであり、龍馬という人間のもとをつくった大切な場所。上町にある「龍馬の生まれたまち記念館」の上野学芸員が見た龍馬の素顔、家族、まち、仲間について考察。龍馬という名前から「辰年生まれ」「午年生まれ」と誤解されがちだが、実は龍馬は師匠の海舟と同じ未年生まれ、上野さんも同じ未年生まれと会場を和ませた。身分制度に絡んだ厳しく細かい決まりごとについて高知風土記から幕末当時の上町周辺の様子を語り好評だった。

想い出が歴史にかわる時

京都国立博物館 宮川 禎一

歴史とは何か?その答えは難しい。しかし、歴史研究の対象となるのはどれくらい前の過去なのか?これなら何とか答えが出てきそう。

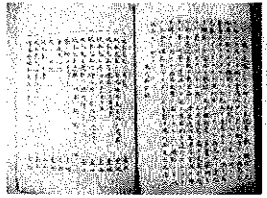
坂本龍馬を追悼した大規模な祭典の代表は明治三十九年に京都霊山墓地で開催された「坂本・中岡両士四十年祭」である。土佐勤王党員であった小畑美穂らが世話役をしていた。墓前で祭文を読んだのは薩摩の大山巖であった。日露戦争の凱旋將軍として知名度抜群であったはずだ。彼は大山弥助と名乗っていた。幕末、龍馬にも会ったことがある。とくに実兄の大山彦八が伏見の薩摩屋敷にいて、寺田屋で傷ついた龍馬を救出したことが深い縁である。祭文には「想ふに大政維新の基する所、二君が長藩緒老と我薩藩諸先輩との間に周旋力を尽しく」とあり、「二君四十年の祭事に、当時勇壮活発の風采今目前に在るが如し。一言追慕の意を表す」と締めくくられている。

この祭典の資料を読む機会があったがわずかに十年でその参加者は大きく様変わりしている。まず、井口家は新助が亡くなり、息子新之助が代表である。坂本家は直寛の養子坂本弥太郎が代表者となっている。その顔ぶれを見渡すと、龍馬に会ったことのある人が激減している。

この四十年祭と五十年祭の間に大きな境界線があるようだ。坂本龍馬を直接知る人々の多くが没し、その子孫の世代が祭典の中心となったのだ。親から聞かされた龍馬であり、記録や小説から知る龍馬である。

明治が大正に代わる頃、想い出の中の坂本龍馬から歴史上の人物である坂本龍馬への変換点があったのであろう。昭和十四年に田中光頭が亡くなつて、龍馬を直接知る人は絶えたのだ。「この本には、こう書かれておりますけれども、実際の龍馬さんはですな。」などと語る人が居なくなつて、ようやく人は歴史研究の対象となるのである。

この十年後、大正五年にまた大規模な祭典が挙行された。「坂本中岡両先生遭難五十年記念祭典」である。最近



「坂本中岡両先生遭難五十年記念祭典記事」のうち陳列品の目録

コラム・龍馬のこと  
龍馬さん ありがとう

(社)高知市観光協会会長 松尾 徹人

私が初めて高知県に足を踏み入れたのは、県の財政課長として自治省から赴任した昭和56年11月15日。電車通り沿道に龍馬生誕祭の海援隊旗が飾られているのが印象的でした。「ああ、龍馬のふるさとで働けるんだ」と緊張感の中で胸躍らせていたのを思い出します。そして、いろいろなことがあって、龍馬を育てた乙女姉やのようなハチキン女性のパワーに引っ張られて高知市長に初当選し初登庁したのが平成6年11月15日、初仕事が桂浜の「龍馬祭り」でのご挨拶。龍馬像の前に立ち、銅像を見上げると「おまんは、どうもワシの申し子ぜよ。龍馬市長になりぎって思い切り高知を洗濯しとうせ。助けちゃうき。」と言われたような気がしたのです。それからというもの、なにかにつけ龍馬にこだわり、イベントにはかつら、ブーツを身につけ龍馬姿をトレードマークとする「龍馬市長」として、とうとう高知市総合計画も「龍馬のこころを体する龍馬都市」がメインテーマになりました。いっそ「高知市」を「龍馬市」に改称したかったのですが、さすがにそこまでコンセンサスを得るには時間が足りませんでした。十年前NHKの本局に龍馬ゆかりの地の市長、教育長引き連れて龍馬姿で押しかけたことが、昨年の「龍馬伝」実現につながったであろうことに感慨を覚えます。

そんな私も昨年、末期ガンを宣告され、厳しい闘病生活を余儀なくされていますが、刺客に付け狙われる龍馬の心境を慮りつつ、冷静に我が無き後のことにも考えを巡らしつつ、夢と希望を捨てることなく自分との戦いに自らを奮い立たせています。

「君が為 捨つる命は惜しまねど 心にかかる国の行く末」

振り返れば、家族を始め人生で出会った多くの人々に教えられ、支えられ、助けられ、そして龍馬に導かれて乗り切ってきたわが人生。今はただ喜びと感謝の穏やかな気持です。龍馬も「おまん、ようがんばったぜよ。待ちゆうき。まあゆっくり来いや。」と言うてくれようろうか。

「龍馬さん ありがとう」

“話してみるかよ”

「集い来る道 潔よき 霜夜かな 龍馬」

現代龍馬学会顧問 永国 淳哉

これは坂崎紫瀾著「汗血千里駒」に出てくる「龍馬辞世句」である。たぶん坂崎紫瀾の創作だろう。命を惜しぬ「潔よき」ものが、土佐勤王党に血判して今夏で150年になる。「維新土佐勤王党史」では吉村虎太郎や吉田東洋暗殺の三人それに池内蔵太、上岡膽治も入れて、総数198人。さらに清岡道之助、樋口眞吉、岡田以蔵、近藤長次郎など「同志人名簿」は112人いる。

先日現代龍馬学会で、龍馬記念館の三浦夏樹学芸主任が「勤王党関係」の研究発表。そのモチーフとして昭和38年(1963)3月の駐日アメリカ大使ライシャワー博士の高知訪問をとりあげ、同博士が質問した「幕末における土佐の下士・庄屋層の自己犠牲の異常性を追求した。土佐勤王党の計310人のうち「殉難者」は83名と、まさに「異常」である。

文久3年(1863)6月切腹した掛橋和泉から始まり間崎哲馬、平井収二郎と続き、野根山屯集なかには16才の木下慎之介もいた。

「飛びこんで ぬれてもみだし 萩の露 上岡胆治」この句は、「土佐の俳句」(里見義徳、橋田憲明共著)によると「文久3年、同志千屋菊次郎、松山深蔵の脱藩に際して贈ったもの。折から、庭の萩の花がさかりであった。彼は、はやる心を「ぬれてもみだし」と詠んだが、数日後、彼もまた同志の後を追って脱藩」そして、切腹、43歳。決して、年寄りではなかった。



みだし」と詠んだが、数日後、彼もまた同志の後を追って脱藩」そして、切腹、43歳。決して、年寄りではなかった。

高知駅前「三志士像」を置き、土佐勤王党再結党をするという。しかし「おだちゆう」党員はいらん。地震被災者のための「金納党」や、真剣に生態系に取り組む「勤農党」の人間がほしい。